

学校法人 健生学園
東日本医療専門学校

鍼灸スポーツ科学科 1年生

令和7年度 シラバス

授業科目名	社会科学(コミュニケーションを含む)			授業形態	講義	教員	吉田 理		No.	1
科目区分	基礎分野	単位	4	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	1年生	
授業概要	社会人として必要とされる基本の一つである「教養」について共に学ぶ。 その際、インタラクティブ=ティーチングを導入して学習者の理解を深める。									
授業の到達目標	現代の社会はこれまでの常識が通用せず、かといって諸外国の例も参考にならない非常に生きづらい世と言える。このような時代に於いて、社会人として或いは一個の人間としてどのように生活を送り他者とかかわりながら自己を保っていくべきなのであろうか。本講義では阿部謹也『「教養」とは何か』を基に学生諸君と共に考えながらその答えを探ろうとするものである。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 ガイダンス。現代の社会とは何か 第2週目 コミュニケーションについて 第3週目 自己の把握について 第4週目 少子高齢化について 第5週目 少子高齢化について・その2 第6週目 情報化社会について 第7週目 国際化社会について 第8週目 日本古来の教養について 第9週目 宗教について 第10週目 宗教について・その2 第11週目 建前と本音について 第12週目 建前と本音の区別について 第13週目 大人になるとは何か。小テスト 第14週目 前期末試験 第15週目 答案返却・解説。後期授業説明 第16週目 後期ガイダンス…プレゼンテーション 第17週目 プレゼンテーション訓練 第18週目 個人の教養について 第19週目 プレゼン①、孤独について 第20週目 プレゼン②、友情について 第21週目 プレゼン③、恋愛について 第22週目 プレゼン④、防衛機制について 第23週目 プレゼン⑤、源流思想「愛」について 第24週目 プレゼン⑥、教養とは何か 第25週目 プレゼン⑦、茶道と教養 第26週目 プレゼン⑧、葬式と世間 第27週目 プレゼン・補、子供の教育について 第28週目 世間からの自由。小テスト 第29週目 後期末試験 第30週目 答案返却・解説。後期授業説明 (授業の方法および自学学習について) ・板書中心の講義形式を基本とするが、しばしばアクティビティを導入する。 ・他に例のない講義内容となるので休まず集中して臨むこと。 ・後期のプレゼンテーションにおいては、思考力・判断力のほかコミュニケーションを図るうえで不可欠な表現力について学修する。									
教科書・参考書等	阿部謹也『「教養」とは何か』講談社現代新書									
成績評価の方法	出席状況および期末試験の点数で総合的に評価する。なお後期のプレゼンテーション個別発表は単位認定の基礎項目となる。									
実践的教育に関する経歴等	①法人事務長(9年)、②高等学校進路(進学・就職)担当責任者(5年)、③教員採用試験及び公務員採用試験予備校人物対策担当責任者(8年)、④高等学校教諭専修免許状(社会)									

授業科目名	外国語			授業形態	講義	教員	箱島 千賀		No.	2
科目区分	基礎分野	単位	4	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	1年生	
授業概要	高校程度までに学習した内容を基礎とし、英語を母国語とする人たちの文化や思想にふれ、国際社会に対応できる背景に興味関心を持ち、コミュニケーションとしての英語表現力を身につけることを目指します。合わせて日常生活における英語や医療の現場に必要な英語を学びます。医療英語には少し難しい発音を持つ単語がありますので、練習が必要です。テキスト付属のCDにある単語と会話表現を自身でも多く聞くようにして、自分の耳にたくさん聞かせてあげましょう。病院などで遭遇しそうな場面・内容を取り入れたケーススタディーを練習に多く取り入れ、発音・発話練習と共に積極的に取り組んでいきましょう。									
授業の到達目標	1 基本的な英文法をコミュニケーションの中で使えるように練習します。〈文法力の養成〉 2 英語リスニングを鍛えましょう。そのためには正確に発音できることが大事です。〈英語を聞きとる力の養成〉 3 日常生活や医療現場でよく使用される語彙や表現を知り、英語コミュニケーションに役立てましょう。〈スピーキング力の養成〉 4 異文化の違いを知り、人々の生活や価値観について理解を深めましょう。〈異文化理解〉									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 Guidance 第16週目 Lesson 7 Reception Desk 再診受付(1) 第2週目 Lesson 1 Basic Words and Phrases はじめの一步(1) 第17週目 Lesson 7 Reception Desk 再診受付(2) 第3週目 Lesson 1 Basic Words and Phrases はじめの一步(2) 第18週目 Lesson 9 Symptoms and Diseases 症状と病名(1) 第4週目 Lesson 2 Body Parts and Organs 体と内臓(1) 第19週目 Lesson 9 Symptoms and Diseases 症状と病名(2) 第5週目 Lesson 2 Body Parts and Organs 体と内臓(2) 第20週目 Lesson 10 Medical Terminology 医療用語【略語】(1) 第6週目 Lesson 3 Hospital Registration 新患受付(1) 第21週目 Lesson 11 Getting to the Hospital 病院へのアクセス(1) 第7週目 Lesson 3 Hospital Registration 新患受付(2) 第22週目 Lesson 11 Getting to the Hospital 病院へのアクセス(2) 第8週目 Lesson 4 Hospital Registration Forms 診察申込書(1) 第23週目 Lesson 12 Finding Your way Around 案内(1) 第9週目 Lesson 4 Hospital Registration Forms 診察申込書(2) 第24週目 Lesson 12 Finding Your way Around 案内(2) 第10週目 Lesson 5 Personal Information 個人情報(1) 第25週目 Lesson 13 At the Cashier's Window 会計(1) 第11週目 Lesson 5 Personal Information 個人情報(2) 第26週目 Lesson 13 At the Cashier's Window 会計(2) 第12週目 Lesson 6 Admissions 入院受付(1) 第27週目 Lesson 14 At the Pharmacy 薬局(1) 第13週目 Lesson 6 Admissions 入院受付(2) 第28週目 Lesson 14 At the Pharmacy 薬局(2) 第14週目 期末試験 Review 1-6 第29週目 期末試験 Review 7-14 第15週目 期末試験 解答解説・解説 第30週目 期末試験 解答解説・解説 (授業の方法および自学学習について)：毎回授業の中で、解答や練習成果を発表してもらいます。 [授業方法] (1)テキストを使用して会話表現や会話を練習します。授業の中では英語の単語、表現、会話文の音声を繰り返し聞いて、発音、発話の練習します。 (2)テキストにある練習問題を解きながら、英語表現の知識を定着させます。 (3)英語コミュニケーションを身近に感じて使えるようにするために、ペアを組んで、会話練習を行います。 [自主学習について] 事前学修：英語単語・表現の意味を調べましょう。(2) テキストCDを聞きましょう。 事後学修：授業で行った練習を振り返り、声を出して発音・発話練習をしてみましょう。									
教科書・参考書等	『Basic English for Medical Office Assistants 医療事務スタッフをめざす人のための医療英語』(南雲堂) ※毎回、電子辞書or英和辞典を持参すること。(必須)									
成績評価の方法	前期後期それぞれ共通 (1) 期末試験 60% * 第14回講義時に実施 (2) 講義内における取組み 40% [教員の質問に対する回答、ペア練習] (3) 授業内の取組みに対する減点 [最大でマイナス15点] (4) 遅刻早退に対する減点 [最大でマイナス10点] * チャイム前のテキスト準備必須、チャイム時には着席していること。 【(2)(3)の評価ポイント:①声を出して正確に英語発音できる。②テキストの演習問題に解答できる。③簡単な英語の質問に対して英語で答えられる。④私語や居眠りなどがある場合はマイナス点の対象となる。⑤ペア練習への不参加、ペア発表への不参加、教員の質問に対する無回答などはマイナス点の対象となる。】 * 欠席の場合、その講義回で上記(2)で得られる点数が「0点」となる。 上記項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する(59点以下は不合格となる)。不合格であった場合、学校が行う追試験を受験する(その場合、最高点は60点となる)。また欠席(数)に関する扱いは学校の取り決めに従うものとする。進捗について、学生の理解度に合わせ進んでいくため、講義内容が変わる場合も可能性としてあるが、その時は逐次アナウンスする。									
実践的教育に関する経歴等	1 東北学院大学非常勤講師現職、宮城学院女子大学非常勤講師現職、 日本大学工学部非常勤講師現職、石巻赤十字看護専門学校非常勤講師現職 2 中学校、高等学校教員免許(英語)									

授業科目名	人文科学			授業形態	講義	教員	菊池 泰子		No.	3																														
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	1年生																															
授業概要	「コミュニケーション演習」																																							
授業の到達目標	様々な場面における、聞く・話す・読む・書くの4技能を柱に、コミュニケーションの方法を振り返り、社会人として必要なスキルを身につける。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 コミュニケーションしてみよう</td> <td>序章 効果的な自己紹介と自己開示</td> </tr> <tr> <td>第2週目 コミュニケーションの基本を身につけようI</td> <td>第1部1章-1 アクティビティ1</td> </tr> <tr> <td>第3週目 コミュニケーションの基本を身につけようII</td> <td>1章-2 アクティビティ2</td> </tr> <tr> <td>第4週目 きれいな発声・発音を身につけよう</td> <td>2章 アクティビティ3</td> </tr> <tr> <td>第5週目 正しい日本語を身につけよう</td> <td>3章 アクティビティ4</td> </tr> <tr> <td>第6週目 話す時の心構えを理解しよう</td> <td>4章 アクティビティ5</td> </tr> <tr> <td>第7週目 効果的な話し方を身につけようI</td> <td>5章-1 アクティビティ6</td> </tr> <tr> <td>第8週目 効果的な話し方を身につけようII</td> <td>5章-2 アクティビティ7</td> </tr> <tr> <td>第9週目 効果的な表現力を身につけようI</td> <td>6章 中間演習</td> </tr> <tr> <td>第10週目 聞くことの重要性 I</td> <td>第2部1章-1 アクティビティ8</td> </tr> <tr> <td>第11週目 聞くことの重要性 II</td> <td>1章-2 アクティビティ9</td> </tr> <tr> <td>第12週目 聞くことの重要性 III</td> <td>1章-3 アクティビティ10</td> </tr> <tr> <td>第13週目 試験対策</td> <td>試験対策</td> </tr> <tr> <td>第14週目 試験</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15週目 試験FBとコミュニケーション検定の紹介</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">内容は多少変更あり</p> <p>(授業の方法および自学学習について) 毎回課題アクティビティがあるのでそれに取り組み、課題アクティビティ・参加度として点数化する。</p>										第1週目 コミュニケーションしてみよう	序章 効果的な自己紹介と自己開示	第2週目 コミュニケーションの基本を身につけようI	第1部1章-1 アクティビティ1	第3週目 コミュニケーションの基本を身につけようII	1章-2 アクティビティ2	第4週目 きれいな発声・発音を身につけよう	2章 アクティビティ3	第5週目 正しい日本語を身につけよう	3章 アクティビティ4	第6週目 話す時の心構えを理解しよう	4章 アクティビティ5	第7週目 効果的な話し方を身につけようI	5章-1 アクティビティ6	第8週目 効果的な話し方を身につけようII	5章-2 アクティビティ7	第9週目 効果的な表現力を身につけようI	6章 中間演習	第10週目 聞くことの重要性 I	第2部1章-1 アクティビティ8	第11週目 聞くことの重要性 II	1章-2 アクティビティ9	第12週目 聞くことの重要性 III	1章-3 アクティビティ10	第13週目 試験対策	試験対策	第14週目 試験		第15週目 試験FBとコミュニケーション検定の紹介	
第1週目 コミュニケーションしてみよう	序章 効果的な自己紹介と自己開示																																							
第2週目 コミュニケーションの基本を身につけようI	第1部1章-1 アクティビティ1																																							
第3週目 コミュニケーションの基本を身につけようII	1章-2 アクティビティ2																																							
第4週目 きれいな発声・発音を身につけよう	2章 アクティビティ3																																							
第5週目 正しい日本語を身につけよう	3章 アクティビティ4																																							
第6週目 話す時の心構えを理解しよう	4章 アクティビティ5																																							
第7週目 効果的な話し方を身につけようI	5章-1 アクティビティ6																																							
第8週目 効果的な話し方を身につけようII	5章-2 アクティビティ7																																							
第9週目 効果的な表現力を身につけようI	6章 中間演習																																							
第10週目 聞くことの重要性 I	第2部1章-1 アクティビティ8																																							
第11週目 聞くことの重要性 II	1章-2 アクティビティ9																																							
第12週目 聞くことの重要性 III	1章-3 アクティビティ10																																							
第13週目 試験対策	試験対策																																							
第14週目 試験																																								
第15週目 試験FBとコミュニケーション検定の紹介																																								
教科書・参考書等	『コミュニケーション技法』(ウィネット)																																							
成績評価の方法	テスト70点・平常点とアクティビティ点30点(アクティビティ点は、授業参加度が低い場合はその都度減点します)→合計100点																																							
実践的教育に関する経歴等	高等学校国語1種免許,日本語教育能力検定試験合格,国家資格登録日本語教員,コミュニケーション検定上級合格,文化庁「就労者に対する日本語教師養成研修」修了																																							

授業科目名	解剖学 I			授業形態	講義	教員	神谷 美香		No.	4																														
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	1年生																															
授業概要	視診や触診, 取穴の際の指標となる突起部などが理解できる。 筋・骨の個人差を発見できるようになる。皮膚の下にある臓器の構造をイメージできる。																																							
授業の到達目標	筋・骨の仕組みを学習し, その特徴を理解することができるようになる。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 ガイダンス, 骨組織</td> <td>第16週目 筋組織, 頭部の筋</td> </tr> <tr> <td>第2週目 骨組織, 人体の区分と方向</td> <td>第17週目 頭部の筋, 頸部の筋</td> </tr> <tr> <td>第3週目 骨の形状, 骨の連結, 関節の種類</td> <td>第18週目 胸部の筋, 腹部の筋</td> </tr> <tr> <td>第4週目 関節運動</td> <td>第19週目 背部の筋</td> </tr> <tr> <td>第5週目 体幹の骨—脊柱, 胸郭</td> <td>第20週目 上肢帯の筋</td> </tr> <tr> <td>第6週目 上肢の骨格—上肢帯, 上腕骨</td> <td>第21週目 上肢帯の筋</td> </tr> <tr> <td>第7週目 前腕の骨, 手指骨</td> <td>第22週目 上腕部の筋</td> </tr> <tr> <td>第8週目 上肢の関節, 下肢の骨格—下肢帯</td> <td>第23週目 前腕屈筋群</td> </tr> <tr> <td>第9週目 大腿骨, 膝蓋骨, 下腿の骨</td> <td>第24週目 前腕伸筋群</td> </tr> <tr> <td>第10週目 足の骨, 下肢の関節</td> <td>第25週目 手内筋, 下肢帯の筋群</td> </tr> <tr> <td>第11週目 頭蓋骨の成り立ち</td> <td>第26週目 下肢帯の筋群</td> </tr> <tr> <td>第12週目 脳頭蓋をつくる骨</td> <td>第27週目 下腿の筋群</td> </tr> <tr> <td>第13週目 顔面頭蓋をつくる骨</td> <td>第28週目 足内在筋</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 試験解説, 筋組織</td> <td>第30週目 試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>1)プリント, パワーポイント, 模型を使用し授業を行うことを基本とする。 2)その日の内容は各自復習する。 3)欠席した場合は次回の授業までに配布物を取りに来ること。</p>										第1週目 ガイダンス, 骨組織	第16週目 筋組織, 頭部の筋	第2週目 骨組織, 人体の区分と方向	第17週目 頭部の筋, 頸部の筋	第3週目 骨の形状, 骨の連結, 関節の種類	第18週目 胸部の筋, 腹部の筋	第4週目 関節運動	第19週目 背部の筋	第5週目 体幹の骨—脊柱, 胸郭	第20週目 上肢帯の筋	第6週目 上肢の骨格—上肢帯, 上腕骨	第21週目 上肢帯の筋	第7週目 前腕の骨, 手指骨	第22週目 上腕部の筋	第8週目 上肢の関節, 下肢の骨格—下肢帯	第23週目 前腕屈筋群	第9週目 大腿骨, 膝蓋骨, 下腿の骨	第24週目 前腕伸筋群	第10週目 足の骨, 下肢の関節	第25週目 手内筋, 下肢帯の筋群	第11週目 頭蓋骨の成り立ち	第26週目 下肢帯の筋群	第12週目 脳頭蓋をつくる骨	第27週目 下腿の筋群	第13週目 顔面頭蓋をつくる骨	第28週目 足内在筋	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 試験解説, 筋組織	第30週目 試験解説
第1週目 ガイダンス, 骨組織	第16週目 筋組織, 頭部の筋																																							
第2週目 骨組織, 人体の区分と方向	第17週目 頭部の筋, 頸部の筋																																							
第3週目 骨の形状, 骨の連結, 関節の種類	第18週目 胸部の筋, 腹部の筋																																							
第4週目 関節運動	第19週目 背部の筋																																							
第5週目 体幹の骨—脊柱, 胸郭	第20週目 上肢帯の筋																																							
第6週目 上肢の骨格—上肢帯, 上腕骨	第21週目 上肢帯の筋																																							
第7週目 前腕の骨, 手指骨	第22週目 上腕部の筋																																							
第8週目 上肢の関節, 下肢の骨格—下肢帯	第23週目 前腕屈筋群																																							
第9週目 大腿骨, 膝蓋骨, 下腿の骨	第24週目 前腕伸筋群																																							
第10週目 足の骨, 下肢の関節	第25週目 手内筋, 下肢帯の筋群																																							
第11週目 頭蓋骨の成り立ち	第26週目 下肢帯の筋群																																							
第12週目 脳頭蓋をつくる骨	第27週目 下腿の筋群																																							
第13週目 顔面頭蓋をつくる骨	第28週目 足内在筋																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 試験解説, 筋組織	第30週目 試験解説																																							
教科書・参考書等	1)参考資料 解剖学 医歯薬出版株式会社 および 配布プリント																																							
成績評価の方法	<p>1)各学期で実施する期末試験の得点。 2)小テスト, 出席状況, 課題提出など。 上記項目から総合的に評価。通年成績が60%以上で単位を認定。 ※欠席した場合は次回の授業までに取りに来ること。 ※遅刻は3回で1回の欠席とする。*感染症などの特別な場合を除く。</p>																																							
実践的教育に関する経歴等	<p>①鍼師・灸師・あん摩マッサージ指圧師 ②鍼灸マッサージ教員免許 ③鍼灸マッサージ院勤務</p>																																							

授業科目名	解剖学Ⅱ			授業形態	講義	教員	樋口 勝広		No.	5																														
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	1年生																															
授業概要	解剖学は生体の持つ様々な構造を理解するための学問であり、医療知識の基礎となる学問である。個々の機能を理解しその知識を統合することにより、生命現象を論理的に説明でき、生体全体が把握できる。本講義では生体の細胞レベルから器官まで解説し、全身の機能および構造までを結びつけて学んでいく。																																							
授業の到達目標	筋・骨・末梢の血管・体性神経系の仕組みと構造を学習し、局所解剖の理解を深め、触診や取穴の際に使う運動器の構造・機能・特徴に対して理解を深める。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 運動器系とは 運動の仕組み</td> <td>第16週目 下肢の筋①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 解剖学的用語 骨の構造と機能</td> <td>第17週目 下肢の筋②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 関節の構造と機能</td> <td>第18週目 上肢の運動・下肢の運動まとめ</td> </tr> <tr> <td>第4週目 体幹の骨格</td> <td>第19週目 末梢の循環器系①</td> </tr> <tr> <td>第5週目 上肢の骨格</td> <td>第20週目 末梢の循環器系②</td> </tr> <tr> <td>第6週目 下肢の骨格</td> <td>第21週目 体性神経系①</td> </tr> <tr> <td>第7週目 頭部の骨格</td> <td>第22週目 体性神経系②</td> </tr> <tr> <td>第8週目 骨格筋の構造と機能</td> <td>第23週目 局所解剖と触察①</td> </tr> <tr> <td>第9週目 骨格筋の分類と補助装置</td> <td>第24週目 局所解剖と触察②</td> </tr> <tr> <td>第10週目 体幹部の筋①</td> <td>第25週目 局所解剖と触察③</td> </tr> <tr> <td>第11週目 体幹部の筋②</td> <td>第26週目 局所解剖と触察④</td> </tr> <tr> <td>第12週目 上肢の筋①</td> <td>第27週目 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第13週目 上肢の筋②</td> <td>第28週目 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期期末試験の解説</td> <td>第30週目 後期期末試験の解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>主にプリントを配布し、パワーポイントを使用し授業を行う。 各々プリントをもとに教科書を熟読すること。 国家試験の科目でもある為、その都度復習を必ず行うこと。 欠席等での後からプリントの請求は次の授業前までに職員室にて行うこと。 自学自習については、特に大事な部分の「まとめ資料」及び問題集を配付いたします。それを中心に学習してください。</p>										第1週目 運動器系とは 運動の仕組み	第16週目 下肢の筋①	第2週目 解剖学的用語 骨の構造と機能	第17週目 下肢の筋②	第3週目 関節の構造と機能	第18週目 上肢の運動・下肢の運動まとめ	第4週目 体幹の骨格	第19週目 末梢の循環器系①	第5週目 上肢の骨格	第20週目 末梢の循環器系②	第6週目 下肢の骨格	第21週目 体性神経系①	第7週目 頭部の骨格	第22週目 体性神経系②	第8週目 骨格筋の構造と機能	第23週目 局所解剖と触察①	第9週目 骨格筋の分類と補助装置	第24週目 局所解剖と触察②	第10週目 体幹部の筋①	第25週目 局所解剖と触察③	第11週目 体幹部の筋②	第26週目 局所解剖と触察④	第12週目 上肢の筋①	第27週目 まとめ	第13週目 上肢の筋②	第28週目 まとめ	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 前期期末試験の解説	第30週目 後期期末試験の解説
第1週目 運動器系とは 運動の仕組み	第16週目 下肢の筋①																																							
第2週目 解剖学的用語 骨の構造と機能	第17週目 下肢の筋②																																							
第3週目 関節の構造と機能	第18週目 上肢の運動・下肢の運動まとめ																																							
第4週目 体幹の骨格	第19週目 末梢の循環器系①																																							
第5週目 上肢の骨格	第20週目 末梢の循環器系②																																							
第6週目 下肢の骨格	第21週目 体性神経系①																																							
第7週目 頭部の骨格	第22週目 体性神経系②																																							
第8週目 骨格筋の構造と機能	第23週目 局所解剖と触察①																																							
第9週目 骨格筋の分類と補助装置	第24週目 局所解剖と触察②																																							
第10週目 体幹部の筋①	第25週目 局所解剖と触察③																																							
第11週目 体幹部の筋②	第26週目 局所解剖と触察④																																							
第12週目 上肢の筋①	第27週目 まとめ																																							
第13週目 上肢の筋②	第28週目 まとめ																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 前期期末試験の解説	第30週目 後期期末試験の解説																																							
教科書・参考書等	医歯薬出版株式会社『解剖生理』を使用する。																																							
成績評価の方法	1)各学期で実施する期末試験の得点 2)出席状況 上記項目から総合的に評価し、通年成績が120点以上となった場合のみ単位を認定する。																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。																																							

授業科目名	生理学 I			授業形態	講義	教員	鈴木 亮太		No.	6																														
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	1年生																															
授業概要	生理学は生体の持つ様々な機能およびその調節機構を理解するための学問であり、臨床医学の根幹となる学問である。個々の機能を理解しその知識を統合することにより、生命現象を論理的に説明でき、生体全体が把握できる。本講義では生体の細胞レベルから器官まで解説し、全身の機能および構造までを結びつけて学んでいく。																																							
授業の到達目標	生理学の基礎を正確に理解し、各器官の正常な機能について理解を深める。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%;">第1週目 第7章 呼吸器系 呼吸と換気</td> <td style="width:50%;">第16週目 第5章 循環器系 心臓の構造</td> </tr> <tr> <td>第2週目 第7章 呼吸器系 気道</td> <td>第17週目 第5章 循環器系 心臓の働き①</td> </tr> <tr> <td>第3週目 第7章 呼吸器系 肺</td> <td>第18週目 第5章 循環器系 心臓の働き②</td> </tr> <tr> <td>第4週目 第7章 呼吸器系 呼吸の調節</td> <td>第19週目 第5章 循環器系 血管系の構造と働き</td> </tr> <tr> <td>第5週目 第3章 神経系 神経系と神経組織</td> <td>第20週目 第5章 循環器系 体循環(動脈系)</td> </tr> <tr> <td>第6週目 第3章 神経系 神経の興奮と伝導・伝達</td> <td>第21週目 第5章 循環器系 体循環(静脈系)</td> </tr> <tr> <td>第7週目 第3章 神経系 中枢神経系(大脳・間脳)</td> <td>第22週目 第5章 循環器系 血圧・循環反射</td> </tr> <tr> <td>第8週目 第3章 神経系 中枢神経系(脳幹・小脳)</td> <td>第23週目 第5章 循環器系 リンパ系の構造と働き</td> </tr> <tr> <td>第9週目 第3章 神経系 中枢神経系(脊髄)</td> <td>第24週目 第4章 感覚器系 特殊感覚①</td> </tr> <tr> <td>第10週目 第3章 神経系 末梢神経系(脳神経)</td> <td>第25週目 第4章 感覚器系 特殊感覚②</td> </tr> <tr> <td>第11週目 第3章 神経系 末梢神経系(脊髄神経)</td> <td>第26週目 第4章 感覚器系 感覚の分類</td> </tr> <tr> <td>第12週目 第3章 神経系 末梢神経系(自律神経)</td> <td>第27週目 第4章 感覚器系 一般感覚</td> </tr> <tr> <td>第13週目 第3章 神経系 反射運動・伝導路</td> <td>第28週目 第4章 感覚器系 感覚の伝導路</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 期末試験の解答・解説</td> <td>第30週目 総復習</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学習方法:主にプリントを配布し、教室で授業を行う。 2) 欠席により授業の配布資料を受け取れなかった場合、次の授業開始前までに、担当教員に資料を受け取りに行くこと。 3) 各授業で必要に応じて確認テストを行う。欠席等で受けられなかった場合は、後日、担当教員から用紙を受け取り、問題を解いて担当教員からの確認を受けること。 										第1週目 第7章 呼吸器系 呼吸と換気	第16週目 第5章 循環器系 心臓の構造	第2週目 第7章 呼吸器系 気道	第17週目 第5章 循環器系 心臓の働き①	第3週目 第7章 呼吸器系 肺	第18週目 第5章 循環器系 心臓の働き②	第4週目 第7章 呼吸器系 呼吸の調節	第19週目 第5章 循環器系 血管系の構造と働き	第5週目 第3章 神経系 神経系と神経組織	第20週目 第5章 循環器系 体循環(動脈系)	第6週目 第3章 神経系 神経の興奮と伝導・伝達	第21週目 第5章 循環器系 体循環(静脈系)	第7週目 第3章 神経系 中枢神経系(大脳・間脳)	第22週目 第5章 循環器系 血圧・循環反射	第8週目 第3章 神経系 中枢神経系(脳幹・小脳)	第23週目 第5章 循環器系 リンパ系の構造と働き	第9週目 第3章 神経系 中枢神経系(脊髄)	第24週目 第4章 感覚器系 特殊感覚①	第10週目 第3章 神経系 末梢神経系(脳神経)	第25週目 第4章 感覚器系 特殊感覚②	第11週目 第3章 神経系 末梢神経系(脊髄神経)	第26週目 第4章 感覚器系 感覚の分類	第12週目 第3章 神経系 末梢神経系(自律神経)	第27週目 第4章 感覚器系 一般感覚	第13週目 第3章 神経系 反射運動・伝導路	第28週目 第4章 感覚器系 感覚の伝導路	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 期末試験の解答・解説	第30週目 総復習
第1週目 第7章 呼吸器系 呼吸と換気	第16週目 第5章 循環器系 心臓の構造																																							
第2週目 第7章 呼吸器系 気道	第17週目 第5章 循環器系 心臓の働き①																																							
第3週目 第7章 呼吸器系 肺	第18週目 第5章 循環器系 心臓の働き②																																							
第4週目 第7章 呼吸器系 呼吸の調節	第19週目 第5章 循環器系 血管系の構造と働き																																							
第5週目 第3章 神経系 神経系と神経組織	第20週目 第5章 循環器系 体循環(動脈系)																																							
第6週目 第3章 神経系 神経の興奮と伝導・伝達	第21週目 第5章 循環器系 体循環(静脈系)																																							
第7週目 第3章 神経系 中枢神経系(大脳・間脳)	第22週目 第5章 循環器系 血圧・循環反射																																							
第8週目 第3章 神経系 中枢神経系(脳幹・小脳)	第23週目 第5章 循環器系 リンパ系の構造と働き																																							
第9週目 第3章 神経系 中枢神経系(脊髄)	第24週目 第4章 感覚器系 特殊感覚①																																							
第10週目 第3章 神経系 末梢神経系(脳神経)	第25週目 第4章 感覚器系 特殊感覚②																																							
第11週目 第3章 神経系 末梢神経系(脊髄神経)	第26週目 第4章 感覚器系 感覚の分類																																							
第12週目 第3章 神経系 末梢神経系(自律神経)	第27週目 第4章 感覚器系 一般感覚																																							
第13週目 第3章 神経系 反射運動・伝導路	第28週目 第4章 感覚器系 感覚の伝導路																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 期末試験の解答・解説	第30週目 総復習																																							
教科書・参考書等	教科書: 医歯薬出版株式会社『解剖生理学』を使用する。 参考資料: 医歯薬出版株式会社『生理学・解剖学』を使用する。																																							
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 期末試験の得点。 2. 授業態度及び出席状況 上記項目から総合的に評価し、通年成績が120点以上になった場合のみ単位を認定する。 ※なお、確認テストの提出および担当教員からの合格が得られない場合は、2点減点としその都度、期末試験から減点する。 																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。																																							

授業科目名	生理学Ⅱ			授業形態	講義	教員	樋口 勝広		No.	7																														
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	1年生																															
授業概要	<p>生理学は生体の持つ様々な機能およびその調節機構を理解するための学問であり、臨床医学の根幹となる学問である。個々の機能を理解しその知識を統合することにより、生命現象を論理的に説明でき、生体全体が把握できる。本講義では生体の細胞レベルから器官まで解説し、全身の機能までを結びつけて学んでいく。</p>																																							
授業の到達目標	<p>生理学の基礎を正確に理解し、各器官の正常な機能について理解を深める。</p>																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">第1週目 人体の構成 体液と恒常性 ①</td> <td style="width: 50%;">第16週目 泌尿器系 ①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 人体の構成 体液と恒常性 ②</td> <td>第17週目 泌尿器系 ②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 人体の構成 組織と器官 ①</td> <td>第18週目 泌尿器系 ③</td> </tr> <tr> <td>第4週目 人体の構成 組織と器官 ②</td> <td>第19週目 内分泌系と体温 ①</td> </tr> <tr> <td>第5週目 血液と免疫の生理学 ①</td> <td>第20週目 内分泌系と体温 ②</td> </tr> <tr> <td>第6週目 血液と免疫の生理学 ②</td> <td>第21週目 内分泌系と体温 ③</td> </tr> <tr> <td>第7週目 血液と免疫の生理学 ③</td> <td>第22週目 内分泌系と体温 ④</td> </tr> <tr> <td>第8週目 消化器系と代謝・栄養 ①</td> <td>第23週目 生殖・身体加齢変化 ①</td> </tr> <tr> <td>第9週目 消化器系と代謝・栄養 ②</td> <td>第24週目 生殖・身体加齢変化 ②</td> </tr> <tr> <td>第10週目 消化器系と代謝・栄養 ③</td> <td>第25週目 生殖・身体加齢変化 ③</td> </tr> <tr> <td>第11週目 消化器系と代謝・栄養 ④</td> <td>第26週目 生殖・身体加齢変化 ④</td> </tr> <tr> <td>第12週目 消化器系と代謝・栄養 ⑤</td> <td>第27週目 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第13週目 消化器系と代謝・栄養 ⑥</td> <td>第28週目 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 試験解説</td> <td>第30週目 総復習</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>主にプリントを配布し、パワーポイントを使用し授業を行う。 各々プリントをもとに教科書を熟読すること。 国家試験の科目でもある為、その都度復習を必ず行うこと。 欠席等での後からプリントの請求は次の授業前までに職員室にて行うこと。 自学自習については、特に大事な部分の「まとめ資料」及び問題集を配付いたします。それを中心に学習してください。</p>										第1週目 人体の構成 体液と恒常性 ①	第16週目 泌尿器系 ①	第2週目 人体の構成 体液と恒常性 ②	第17週目 泌尿器系 ②	第3週目 人体の構成 組織と器官 ①	第18週目 泌尿器系 ③	第4週目 人体の構成 組織と器官 ②	第19週目 内分泌系と体温 ①	第5週目 血液と免疫の生理学 ①	第20週目 内分泌系と体温 ②	第6週目 血液と免疫の生理学 ②	第21週目 内分泌系と体温 ③	第7週目 血液と免疫の生理学 ③	第22週目 内分泌系と体温 ④	第8週目 消化器系と代謝・栄養 ①	第23週目 生殖・身体加齢変化 ①	第9週目 消化器系と代謝・栄養 ②	第24週目 生殖・身体加齢変化 ②	第10週目 消化器系と代謝・栄養 ③	第25週目 生殖・身体加齢変化 ③	第11週目 消化器系と代謝・栄養 ④	第26週目 生殖・身体加齢変化 ④	第12週目 消化器系と代謝・栄養 ⑤	第27週目 まとめ	第13週目 消化器系と代謝・栄養 ⑥	第28週目 まとめ	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 試験解説	第30週目 総復習
第1週目 人体の構成 体液と恒常性 ①	第16週目 泌尿器系 ①																																							
第2週目 人体の構成 体液と恒常性 ②	第17週目 泌尿器系 ②																																							
第3週目 人体の構成 組織と器官 ①	第18週目 泌尿器系 ③																																							
第4週目 人体の構成 組織と器官 ②	第19週目 内分泌系と体温 ①																																							
第5週目 血液と免疫の生理学 ①	第20週目 内分泌系と体温 ②																																							
第6週目 血液と免疫の生理学 ②	第21週目 内分泌系と体温 ③																																							
第7週目 血液と免疫の生理学 ③	第22週目 内分泌系と体温 ④																																							
第8週目 消化器系と代謝・栄養 ①	第23週目 生殖・身体加齢変化 ①																																							
第9週目 消化器系と代謝・栄養 ②	第24週目 生殖・身体加齢変化 ②																																							
第10週目 消化器系と代謝・栄養 ③	第25週目 生殖・身体加齢変化 ③																																							
第11週目 消化器系と代謝・栄養 ④	第26週目 生殖・身体加齢変化 ④																																							
第12週目 消化器系と代謝・栄養 ⑤	第27週目 まとめ																																							
第13週目 消化器系と代謝・栄養 ⑥	第28週目 まとめ																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 試験解説	第30週目 総復習																																							
教科書・参考書等	<p>医歯薬出版株式会社『解剖生理』を使用する。</p>																																							
成績評価の方法	<p>1)各学期で実施する期末試験の得点 2)出席状況 上記項目から総合的に評価し、通年成績が120点以上となった場合のみ単位を認定する。</p>																																							
実践的教育に関する経歴等	<p>鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。</p>																																							

授業科目名	はりきゆう理論 I			授業形態	講義	教員	神谷 美香・善積 紗英子		No.	8
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	1年生	
授業概要	鍼・灸の道具の構造、使い方を理解できる。 ドーゼオーバーや実際に体調が悪くなった時の対処方など、臨床応用を学ぶ。 医療人としてのリスク管理の基礎を学ぶ。 生体に対する各種刺激とその伝わり方、炎症反応の基礎を学ぶ。 鍼灸治療に関係のある反射について学ぶ。									
授業の到達目標	鍼灸師として知っておくべき道具の知識とリスク管理について総合的に学ぶ。 刺激の種類に対応する伝導路と反射についての基礎、炎症反応の基礎を総合的に学び、 身体内部で起こっていることを理解する。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 ガイダンス、鍼灸施術の意義・特徴 第2週目 鍼の基礎知識一用具、古代九鍼 第3週目 刺鍼の方式と術式 第4週目 特殊鍼法 第5週目 灸の基礎知識一灸の材料、線香 第6週目 灸の種類一有痕灸、無痕灸 第7週目 鍼灸の臨床応用一刺激量、感受性 第8週目 鍼灸療法の適応症 第9週目 鍼灸療法の禁忌 第10週目 リスク管理一リスク管理の基本 第11週目 鍼療法の過誤と副作用 第12週目 灸療法の過誤と副作用 第13週目 感染症対策 第14週目 前期期末試験 第15週目 試験解説 第16週目 刺激の種類と受容器① 第17週目 刺激の種類と受容器② 第18週目 感覚受容器と神経線維 第19週目 上行性伝導路① 第20週目 上行性伝導路② 第21週目 関連痛・痛みの悪循環 第22週目 体性反射① 第23週目 体性反射② 第24週目 体性反射③ 第25週目 内臓の反射 第26週目 熱傷(炎症) 第27週目 熱傷の分類 第28週目 体表反応 第29週目 後期期末試験 第30週目 後期試験の解説 (授業の方法および自学学習について) 1)プリント、パワーポイント、配布プリント、鍼灸道具各種を使用し授業を行うことを基本とする。 2)その日の内容は各自復習する。 3)欠席した場合は次回の授業までに配布物を取りに来ること。 4)日直は授業前に準備するものがないか職員室まで確認に来ること。									
教科書・参考書等	はりきゆう理論「医歯薬出版株式会社」および 配布プリント									
成績評価の方法	1)各学期で実施する期末試験の得点。2)小テストの得点。3)出席状況および課題提出など。上記項目から総合的に評価。通年成績が60%以上で単位を認定。									
実践的教育に関する経歴等	神谷:①鍼師・灸師・あん摩マッサージ指圧師②鍼灸マッサージ教員免許③鍼灸マッサージ院勤務 善積:鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。									

授業科目名	東洋医学概論 I			授業形態	講義	教員	善積 紗英子		No.	9																														
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	1年生																															
授業概要	東洋医学の思想、生理、病理の基本を学習する。																																							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋医学的思想の特徴が理解できる。 ・気血津液、臓腑の生理が理解できる。 ・東洋医学的な病の成因、症状の基本が理解できる。 																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 東洋医学について</td> <td>第16週目 気血津液弁証(舌脈所見)①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 陰陽論</td> <td>第17週目 気血津液弁証(舌脈所見)②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 五行論</td> <td>第18週目 陰陽弁証(症状)</td> </tr> <tr> <td>第4週目 人体の見方</td> <td>第19週目 陰陽弁証(舌脈所見)</td> </tr> <tr> <td>第5週目 八綱と四診の概要①</td> <td>第20週目 蔵象学説①肝系統</td> </tr> <tr> <td>第6週目 八綱と四診の概要②</td> <td>第21週目 蔵象学説②心系統</td> </tr> <tr> <td>第7週目 東洋医学的生理物質の生理①</td> <td>第22週目 蔵象学説③脾系統</td> </tr> <tr> <td>第8週目 東洋医学的生理物質の生理②</td> <td>第23週目 蔵象学説④肺系統</td> </tr> <tr> <td>第9週目 東洋医学的生理物質の生理③</td> <td>第24週目 蔵象学説⑤腎系統</td> </tr> <tr> <td>第10週目 病因について</td> <td>第25週目 蔵象学説⑥三焦・奇恒の腑</td> </tr> <tr> <td>第11週目 気血津液弁証(症状)①</td> <td>第26週目 神について・全身の気機について</td> </tr> <tr> <td>第12週目 気血津液弁証(症状)②</td> <td>第27週目 臓腑の相互協調関係</td> </tr> <tr> <td>第13週目 気血津液弁証(症状)③</td> <td>第28週目 刺法</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期期末試験解説</td> <td>第30週目 後期期末試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>主に資料を配布し、授業を行う。 国家試験科目に該当するため、配付資料と教科書をどちらも熟読し、各授業ごとに必ず復習すること。 欠席により授業の配付資料を受け取れなかった場合、次の授業日の授業開始前の朝、職員室にて担当教員に請求すること。</p>										第1週目 東洋医学について	第16週目 気血津液弁証(舌脈所見)①	第2週目 陰陽論	第17週目 気血津液弁証(舌脈所見)②	第3週目 五行論	第18週目 陰陽弁証(症状)	第4週目 人体の見方	第19週目 陰陽弁証(舌脈所見)	第5週目 八綱と四診の概要①	第20週目 蔵象学説①肝系統	第6週目 八綱と四診の概要②	第21週目 蔵象学説②心系統	第7週目 東洋医学的生理物質の生理①	第22週目 蔵象学説③脾系統	第8週目 東洋医学的生理物質の生理②	第23週目 蔵象学説④肺系統	第9週目 東洋医学的生理物質の生理③	第24週目 蔵象学説⑤腎系統	第10週目 病因について	第25週目 蔵象学説⑥三焦・奇恒の腑	第11週目 気血津液弁証(症状)①	第26週目 神について・全身の気機について	第12週目 気血津液弁証(症状)②	第27週目 臓腑の相互協調関係	第13週目 気血津液弁証(症状)③	第28週目 刺法	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 前期期末試験解説	第30週目 後期期末試験解説
第1週目 東洋医学について	第16週目 気血津液弁証(舌脈所見)①																																							
第2週目 陰陽論	第17週目 気血津液弁証(舌脈所見)②																																							
第3週目 五行論	第18週目 陰陽弁証(症状)																																							
第4週目 人体の見方	第19週目 陰陽弁証(舌脈所見)																																							
第5週目 八綱と四診の概要①	第20週目 蔵象学説①肝系統																																							
第6週目 八綱と四診の概要②	第21週目 蔵象学説②心系統																																							
第7週目 東洋医学的生理物質の生理①	第22週目 蔵象学説③脾系統																																							
第8週目 東洋医学的生理物質の生理②	第23週目 蔵象学説④肺系統																																							
第9週目 東洋医学的生理物質の生理③	第24週目 蔵象学説⑤腎系統																																							
第10週目 病因について	第25週目 蔵象学説⑥三焦・奇恒の腑																																							
第11週目 気血津液弁証(症状)①	第26週目 神について・全身の気機について																																							
第12週目 気血津液弁証(症状)②	第27週目 臓腑の相互協調関係																																							
第13週目 気血津液弁証(症状)③	第28週目 刺法																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 前期期末試験解説	第30週目 後期期末試験解説																																							
教科書・参考書等	医道の日本社の『新版東洋医学概論』を使用する。																																							
成績評価の方法	1)各学期で実施する期末試験の得点 2)小テストの得点 小テストは60%以上を合格とし、60%以下の場合は小テストの再試験を受け、合格すること。 各期末試験までに合格しない場合は小テスト1回分につき1点の減点とする。 3)課題の提出状況 各期末試験までに課題が未提出の場合は1ページにつき1点の減点とする。 上記項目から総合的に評価し、通年成績が120点以上になった場合のみ単位を認定する。																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。																																							

授業科目名	経絡経穴概論 I			授業形態	講義	教員	南洞 大有		No.	10																														
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	1年生																															
授業概要	経穴の名称、正経十二経脈・奇経八脈の流注、要穴表について学習する。																																							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・361穴の名称が分かる。 ・正経十二経脈と奇経八脈の流注が分かる。 ・要穴表を書くことができる。 																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 経絡経穴総論</td> <td>第16週目 八会穴、四総穴、下合穴</td> </tr> <tr> <td>第2週目 手太陰肺経と手陽明大腸経の流注と経穴</td> <td>第17週目 陰経の五俞穴、五行穴①</td> </tr> <tr> <td>第3週目 足太陰脾経と足陽明胃経の流注と経穴</td> <td>第18週目 陰経の五俞穴、五行穴②</td> </tr> <tr> <td>第4週目 足陽明胃経と足太陰脾経の流注と経穴</td> <td>第19週目 陽経の五俞穴、五行穴①</td> </tr> <tr> <td>第5週目 手少陰陰経と手太陽小腸経の流注と経穴</td> <td>第20週目 陽経の五俞穴、五行穴②</td> </tr> <tr> <td>第6週目 足太陽膀胱経の流注と経穴①</td> <td>第21週目 陰経の五要穴①</td> </tr> <tr> <td>第7週目 足太陽膀胱経の流注と経穴②</td> <td>第22週目 陰経の五要穴②</td> </tr> <tr> <td>第8週目 足少陰腎経の流注と経穴</td> <td>第23週目 陽経の五要穴①</td> </tr> <tr> <td>第9週目 手厥陰心包経と手少陽三焦経の流注と経穴</td> <td>第24週目 陽経の五要穴②</td> </tr> <tr> <td>第10週目 足少陽胆経の流注と経穴①</td> <td>第25週目 奇経八脈の流注と経穴</td> </tr> <tr> <td>第11週目 足少陽胆経の流注と経穴②</td> <td>第26週目 奇経八脈の要穴について①</td> </tr> <tr> <td>第12週目 足厥陰肝経と督脈の流注と経穴</td> <td>第27週目 奇経八脈の要穴について②</td> </tr> <tr> <td>第13週目 任脈の流注と経穴、正経十二経絡流注</td> <td>第28週目 奇穴</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期期末試験の解説</td> <td>第30週目 後期期末試験の解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>主に教科書で、授業を行う。</p>										第1週目 経絡経穴総論	第16週目 八会穴、四総穴、下合穴	第2週目 手太陰肺経と手陽明大腸経の流注と経穴	第17週目 陰経の五俞穴、五行穴①	第3週目 足太陰脾経と足陽明胃経の流注と経穴	第18週目 陰経の五俞穴、五行穴②	第4週目 足陽明胃経と足太陰脾経の流注と経穴	第19週目 陽経の五俞穴、五行穴①	第5週目 手少陰陰経と手太陽小腸経の流注と経穴	第20週目 陽経の五俞穴、五行穴②	第6週目 足太陽膀胱経の流注と経穴①	第21週目 陰経の五要穴①	第7週目 足太陽膀胱経の流注と経穴②	第22週目 陰経の五要穴②	第8週目 足少陰腎経の流注と経穴	第23週目 陽経の五要穴①	第9週目 手厥陰心包経と手少陽三焦経の流注と経穴	第24週目 陽経の五要穴②	第10週目 足少陽胆経の流注と経穴①	第25週目 奇経八脈の流注と経穴	第11週目 足少陽胆経の流注と経穴②	第26週目 奇経八脈の要穴について①	第12週目 足厥陰肝経と督脈の流注と経穴	第27週目 奇経八脈の要穴について②	第13週目 任脈の流注と経穴、正経十二経絡流注	第28週目 奇穴	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 前期期末試験の解説	第30週目 後期期末試験の解説
第1週目 経絡経穴総論	第16週目 八会穴、四総穴、下合穴																																							
第2週目 手太陰肺経と手陽明大腸経の流注と経穴	第17週目 陰経の五俞穴、五行穴①																																							
第3週目 足太陰脾経と足陽明胃経の流注と経穴	第18週目 陰経の五俞穴、五行穴②																																							
第4週目 足陽明胃経と足太陰脾経の流注と経穴	第19週目 陽経の五俞穴、五行穴①																																							
第5週目 手少陰陰経と手太陽小腸経の流注と経穴	第20週目 陽経の五俞穴、五行穴②																																							
第6週目 足太陽膀胱経の流注と経穴①	第21週目 陰経の五要穴①																																							
第7週目 足太陽膀胱経の流注と経穴②	第22週目 陰経の五要穴②																																							
第8週目 足少陰腎経の流注と経穴	第23週目 陽経の五要穴①																																							
第9週目 手厥陰心包経と手少陽三焦経の流注と経穴	第24週目 陽経の五要穴②																																							
第10週目 足少陽胆経の流注と経穴①	第25週目 奇経八脈の流注と経穴																																							
第11週目 足少陽胆経の流注と経穴②	第26週目 奇経八脈の要穴について①																																							
第12週目 足厥陰肝経と督脈の流注と経穴	第27週目 奇経八脈の要穴について②																																							
第13週目 任脈の流注と経穴、正経十二経絡流注	第28週目 奇穴																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 前期期末試験の解説	第30週目 後期期末試験の解説																																							
教科書・参考書等	医道の日本社の『経絡経穴概論』を使用する。																																							
成績評価の方法	各学期で実施する期末試験の得点が、通年成績120点以上で単位を認定する。																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。																																							

授業科目名	臨床はりきゅう学 I			授業形態	講義	教員	善積 紗英子		No.	11																														
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	1年生																															
授業概要	361穴、奇穴、要穴を人体で取穴ができるように学習する。																																							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各部位の取穴方法について実技を通して理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ①前腕、②上腕、③下腿、④大腿、⑤手部、⑥足部、⑦腰殿部、⑧肩背部、⑨腹部、⑩頸部 ・要穴に対して素早く正確に取穴を行うことができる。 																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 骨度法について</td> <td>第16週目 腰部の取穴</td> </tr> <tr> <td>第2週目 前腕～手部の取穴(陰経)①</td> <td>第17週目 背部の取穴①</td> </tr> <tr> <td>第3週目 前腕～手部の取穴(陰経)②</td> <td>第18週目 背部の取穴②</td> </tr> <tr> <td>第4週目 前腕～手部の取穴(陽経)①</td> <td>第19週目 要穴の取穴①</td> </tr> <tr> <td>第5週目 前腕～手部の取穴(陽経)②</td> <td>第20週目 要穴の取穴②</td> </tr> <tr> <td>第6週目 下腿～足部の取穴(陰経)①</td> <td>第21週目 大腿部の取穴①</td> </tr> <tr> <td>第7週目 下腿～足部の取穴(陰経)②</td> <td>第22週目 大腿部の取穴②</td> </tr> <tr> <td>第8週目 下腿～足部の取穴(陽経)①</td> <td>第23週目 上腹部・側腹部の取穴</td> </tr> <tr> <td>第9週目 下腿～足部の取穴(陽経)②</td> <td>第24週目 下腹部の取穴</td> </tr> <tr> <td>第10週目 上腕部・肩関節・肩甲骨周囲の取穴①</td> <td>第25週目 頸部の取穴</td> </tr> <tr> <td>第11週目 上腕部・肩関節・肩甲骨周囲の取穴②</td> <td>第26週目 上肢下肢にある奇穴の取穴</td> </tr> <tr> <td>第12週目 肘、膝より末端の取穴</td> <td>第27週目 総まとめ</td> </tr> <tr> <td>第13週目 前期実技試験</td> <td>第28週目 後期実技試験</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期実技試験</td> <td>第29週目 後期実技試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 腰部の取穴</td> <td>第30週目 紐を用いた取穴</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>主に資料を配布し授業を行う。 国家試験科目に該当するため、配付資料と教科書をどちらも熟読し、各授業ごとに必ず取穴実技の復習をすること。 欠席により授業の配付資料を受け取れなかった場合、次の授業日の授業開始前の朝、職員室にて担当教員に請求すること。</p>										第1週目 骨度法について	第16週目 腰部の取穴	第2週目 前腕～手部の取穴(陰経)①	第17週目 背部の取穴①	第3週目 前腕～手部の取穴(陰経)②	第18週目 背部の取穴②	第4週目 前腕～手部の取穴(陽経)①	第19週目 要穴の取穴①	第5週目 前腕～手部の取穴(陽経)②	第20週目 要穴の取穴②	第6週目 下腿～足部の取穴(陰経)①	第21週目 大腿部の取穴①	第7週目 下腿～足部の取穴(陰経)②	第22週目 大腿部の取穴②	第8週目 下腿～足部の取穴(陽経)①	第23週目 上腹部・側腹部の取穴	第9週目 下腿～足部の取穴(陽経)②	第24週目 下腹部の取穴	第10週目 上腕部・肩関節・肩甲骨周囲の取穴①	第25週目 頸部の取穴	第11週目 上腕部・肩関節・肩甲骨周囲の取穴②	第26週目 上肢下肢にある奇穴の取穴	第12週目 肘、膝より末端の取穴	第27週目 総まとめ	第13週目 前期実技試験	第28週目 後期実技試験	第14週目 前期実技試験	第29週目 後期実技試験	第15週目 腰部の取穴	第30週目 紐を用いた取穴
第1週目 骨度法について	第16週目 腰部の取穴																																							
第2週目 前腕～手部の取穴(陰経)①	第17週目 背部の取穴①																																							
第3週目 前腕～手部の取穴(陰経)②	第18週目 背部の取穴②																																							
第4週目 前腕～手部の取穴(陽経)①	第19週目 要穴の取穴①																																							
第5週目 前腕～手部の取穴(陽経)②	第20週目 要穴の取穴②																																							
第6週目 下腿～足部の取穴(陰経)①	第21週目 大腿部の取穴①																																							
第7週目 下腿～足部の取穴(陰経)②	第22週目 大腿部の取穴②																																							
第8週目 下腿～足部の取穴(陽経)①	第23週目 上腹部・側腹部の取穴																																							
第9週目 下腿～足部の取穴(陽経)②	第24週目 下腹部の取穴																																							
第10週目 上腕部・肩関節・肩甲骨周囲の取穴①	第25週目 頸部の取穴																																							
第11週目 上腕部・肩関節・肩甲骨周囲の取穴②	第26週目 上肢下肢にある奇穴の取穴																																							
第12週目 肘、膝より末端の取穴	第27週目 総まとめ																																							
第13週目 前期実技試験	第28週目 後期実技試験																																							
第14週目 前期実技試験	第29週目 後期実技試験																																							
第15週目 腰部の取穴	第30週目 紐を用いた取穴																																							
教科書・参考書等	主に医道の日本社の『経絡経穴学』を使用する。																																							
成績評価の方法	1)各学期で実施する期末試験(実技試験)の得点(いずれの試験項目でも60%以上を合格基準とする) 2)小テストの実施 小テストで合格点に達した場合は期末試験(実技試験)の得点に加点を行う。加点時の得点についてはその都度案内する。 3)出席状況 本授業は実技中心のため、出席状況を重視する。 遅刻または早退1回につき2点、欠席1回につき4点、実技試験の得点から減点とする。 4)準備物の不足 白衣、タオル等を忘れた場合は2点、実技試験の得点から減点する。 上記項目から総合的に評価し、通年成績が120点以上になった場合のみ単位を認定する。																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。																																							

授業科目名	基礎はりきゅう実技 I			授業形態	講義	教員	樋口 勝広		No.	12
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	1年生	
授業概要	施術者の心得、鍼に関する基礎知識と基本的手技を学習し、臨床に必要な基礎技術を身につける。施術を安全かつ正確に行うための能力と技術を養う。									
授業の到達目標	1. 鍼の基本操作について学習する。 2. 施術上の注意について学習する。 3. 身体各部位への刺鍼について学習する。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 鍼に関する基礎知識 第2週目 基本手技(挿管法) 第3週目 基本手技(挿管法) 第4週目 基本刺鍼(鍼枕での練習)直刺 第5週目 基本刺鍼(鍼枕での練習)直刺 第6週目 基本刺鍼(鍼枕での練習)直・斜・横刺 第7週目 基本手技(挿管法) 第8週目 基本手技(挿管法)※確認テスト 第9週目 基本刺鍼(鍼枕での練習)直・斜・横刺 第10週目 基本刺鍼(鍼枕での練習)直・斜・横刺 第11週目 基本刺鍼(鍼枕での練習)直・斜・横刺 第12週目 前期期末実技練習① 第13週目 前期期末実技練習② 第14週目 前期期末試験 第15週目 前期期末試験 第16週目 施術上の諸注意・消毒法 第17週目 下腿への刺鍼① 第18週目 下腿への刺鍼② 第19週目 腰部への刺鍼① 第20週目 腰部への刺鍼② 第21週目 腰部への刺鍼③ 第22週目 腹部への刺鍼① 第23週目 腹部への刺鍼② 第24週目 上肢への刺鍼① 第25週目 上肢への刺鍼② 第26週目 腰部灸頭鍼① 第27週目 腰部灸頭鍼② 第28週目 後期期末実技練習 第29週目 後期期末試験 第30週目 後期期末試験 (授業の方法および自学学習について) 主に教科書・配布資料により、授業を行う。 鍼灸師として治療を行うための基礎になるため、配布資料と教科書を熟読し、各授業の前後に実技の練習・復習等をするを勧める。 欠席により授業の配布資料を受け取れなかった場合、次の授業開始前までに、担当教員に資料を受け取りに行くこと。									
教科書・参考書等	教科書: 医道の日本社『はりきゅう実技<基礎編>』を使用する。									
成績評価の方法	1)各学期で実施する期末試験(実技試験を中心とするが、筆記試験を行う場合がある。)の得点 2)出席状況 本授業は実技中心のため、出席状況を重視する。忌引きなど学校が認める場合を除き、欠席は2点、遅刻は1点、その都度、期末試験結果から減点する。 3)講義中に確認テストを行う。確認テストの結果が合格点に達しない場合、次の期末試験前までに合格すること。合格できなかった場合は期末試験の結果から5点減点するので注意すること。 上記項目から総合的に評価し、通年成績が120点以上になった場合のみ単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。									

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	基礎はりきゅう実技Ⅱ		授業形態	講義	教員	鈴木 亮太		No.	13		
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	1年生		
授業概要	<p>1. 繰り返しの反復練習を繰り返すことによって経験を積み重ね技術を習得していく。</p> <p>2. 様々な種類のきゅう法を学び、臨床応用につなげる。</p>										
授業の到達目標	<p>きゅう法の基礎的な技術を身につけ、臨床につながる手法を学ぶ。</p>										
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0" style="width:100%"> <tr> <td style="width:50%"> 第1週目 「お灸とは」オリエンテーション 第2週目 艾炷の捻り方の練習①((半)米粒大) 第3週目 艾炷の捻り方の練習②((半)米粒大) 第4週目 艾炷への点火①(知熱灸・透熱灸) 第5週目 艾炷への点火②(知熱灸・透熱灸) 第6週目 艾炷への点火③(知熱灸・透熱灸) 第7週目 艾炷への点火(交互施灸) 第8週目 小テスト 第9週目 人体施灸の方法・消毒法 第10週目 人体施灸①(下肢) ※灸点紙 第11週目 人体施灸②(四肢・腰部) ※灸点紙 第12週目 人体施灸③(四肢・腰部) ※灸点紙 第13週目 前期期末試験(模擬練習) 第14週目 前期期末試験① 第15週目 前期期末試験② </td> <td style="width:50%"> 第16週目 前期の復習 第17週目 対人への施灸①(下肢) 第18週目 その他の灸①(棒灸) 第19週目 対人への施灸②(四肢・体幹) 第20週目 その他の灸②(塩灸) 第21週目 対人への施灸③(四肢・体幹) 第22週目 その他の灸③(生姜灸・糸状灸) 第23週目 対人への施灸④(四肢・体幹) 第24週目 対人への施灸①(総復習) 第25週目 対人への施灸②(総復習) 第26週目 対人への施灸③(総復習) 第27週目 対人への施灸④(総復習) 第28週目 後期期末試験(模擬練習) 第29週目 後期期末試験① 第30週目 後期期末試験② </td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜、教科書や配布資料を使用し、授業を行う。 ・鍼灸師として治療を行うための基礎になるため、配付資料と教科書を熟読し、各授業の前後に実技の練習・復習等をするを勧める。 ・欠席により授業の配付資料を受け取れなかった場合、次の授業開始前までに、担当教員に資料を受け取りに行くこと。 									第1週目 「お灸とは」オリエンテーション 第2週目 艾炷の捻り方の練習①((半)米粒大) 第3週目 艾炷の捻り方の練習②((半)米粒大) 第4週目 艾炷への点火①(知熱灸・透熱灸) 第5週目 艾炷への点火②(知熱灸・透熱灸) 第6週目 艾炷への点火③(知熱灸・透熱灸) 第7週目 艾炷への点火(交互施灸) 第8週目 小テスト 第9週目 人体施灸の方法・消毒法 第10週目 人体施灸①(下肢) ※灸点紙 第11週目 人体施灸②(四肢・腰部) ※灸点紙 第12週目 人体施灸③(四肢・腰部) ※灸点紙 第13週目 前期期末試験(模擬練習) 第14週目 前期期末試験① 第15週目 前期期末試験②	第16週目 前期の復習 第17週目 対人への施灸①(下肢) 第18週目 その他の灸①(棒灸) 第19週目 対人への施灸②(四肢・体幹) 第20週目 その他の灸②(塩灸) 第21週目 対人への施灸③(四肢・体幹) 第22週目 その他の灸③(生姜灸・糸状灸) 第23週目 対人への施灸④(四肢・体幹) 第24週目 対人への施灸①(総復習) 第25週目 対人への施灸②(総復習) 第26週目 対人への施灸③(総復習) 第27週目 対人への施灸④(総復習) 第28週目 後期期末試験(模擬練習) 第29週目 後期期末試験① 第30週目 後期期末試験②
第1週目 「お灸とは」オリエンテーション 第2週目 艾炷の捻り方の練習①((半)米粒大) 第3週目 艾炷の捻り方の練習②((半)米粒大) 第4週目 艾炷への点火①(知熱灸・透熱灸) 第5週目 艾炷への点火②(知熱灸・透熱灸) 第6週目 艾炷への点火③(知熱灸・透熱灸) 第7週目 艾炷への点火(交互施灸) 第8週目 小テスト 第9週目 人体施灸の方法・消毒法 第10週目 人体施灸①(下肢) ※灸点紙 第11週目 人体施灸②(四肢・腰部) ※灸点紙 第12週目 人体施灸③(四肢・腰部) ※灸点紙 第13週目 前期期末試験(模擬練習) 第14週目 前期期末試験① 第15週目 前期期末試験②	第16週目 前期の復習 第17週目 対人への施灸①(下肢) 第18週目 その他の灸①(棒灸) 第19週目 対人への施灸②(四肢・体幹) 第20週目 その他の灸②(塩灸) 第21週目 対人への施灸③(四肢・体幹) 第22週目 その他の灸③(生姜灸・糸状灸) 第23週目 対人への施灸④(四肢・体幹) 第24週目 対人への施灸①(総復習) 第25週目 対人への施灸②(総復習) 第26週目 対人への施灸③(総復習) 第27週目 対人への施灸④(総復習) 第28週目 後期期末試験(模擬練習) 第29週目 後期期末試験① 第30週目 後期期末試験②										
教科書・参考書等	<p>教科書：医道の日本社『はりきゅう実技<基礎編>』を使用する。</p>										
成績評価の方法	<p>1)各学期で実施する期末試験(実技試験を中心とするが、筆記試験を行う場合がある。)の得点 2)出席状況 本授業は実技中心のため、出席状況を重視する。忌引きなど学校が認める場合を除き、欠席は2点、遅刻は1点、その都度、期末試験結果から減点する。 3)授業中に小テストを行う。小テストの結果が合格点に達しない場合、次の期末試験前までに合格すること。合格できなかった場合は期末試験の結果から5点減点するので注意すること。</p>										
実践的教育に関する経歴等	<p>鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。</p>										

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	基礎はりきゅう実技Ⅲ			授業形態	講義	教員	神谷 美香		No.	14		
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	1年生			
授業概要	1. 施術上の注意について学習する。 2. 鍼灸の基本操作について学習する。 3. 身体各部位への刺鍼について学習する。											
授業の到達目標	鍼灸に関する基礎知識を学習し、臨床に必要な基礎技術を身につける。施術を安全かつ正確に行うための能力と技術を養う。											
授業内容・計画	(授業計画) <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> 第1週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第2週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第3週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第4週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第5週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第6週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第7週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第8週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第9週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第10週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第11週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第12週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第13週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第14週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第15週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> 第16週目 施術野の消毒、刺鍼抜鍼時の清潔操作 第17週目 鍼や器具の洗浄、滅菌と保管 第18週目 鍼灸医療事故、有害事象対策 第19週目 セルフ鍼灸 第20週目 セルフ鍼灸 第21週目 対人への施術 第22週目 対人への施術 第23週目 対人への施術 第24週目 対人への施術 第25週目 重要臓器の傷害事故の防止 第26週目 対人への施術 第27週目 対人への施術 第28週目 対人への施術 第29週目 後期期末試験 第30週目 円皮鍼と皮内鍼 </td> </tr> </table> (授業の方法および自学学習について) (1)本講義は実技のため、開始時間までに実習室2に白衣着用で集合する事。 (2)生徒同士で鍼灸を行うので、患者役に白衣内はタンクトップと短パンを着用の事。 (3)基礎はりきゅう実技Ⅰ、基礎はりきゅう実技Ⅱの復習を行う。										第1週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第2週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第3週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第4週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第5週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第6週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第7週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第8週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第9週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第10週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第11週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第12週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第13週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第14週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第15週目 手洗い、手指消毒、手指の運動①	第16週目 施術野の消毒、刺鍼抜鍼時の清潔操作 第17週目 鍼や器具の洗浄、滅菌と保管 第18週目 鍼灸医療事故、有害事象対策 第19週目 セルフ鍼灸 第20週目 セルフ鍼灸 第21週目 対人への施術 第22週目 対人への施術 第23週目 対人への施術 第24週目 対人への施術 第25週目 重要臓器の傷害事故の防止 第26週目 対人への施術 第27週目 対人への施術 第28週目 対人への施術 第29週目 後期期末試験 第30週目 円皮鍼と皮内鍼
第1週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第2週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第3週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第4週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第5週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第6週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第7週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第8週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第9週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第10週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第11週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第12週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第13週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第14週目 手洗い、手指消毒、手指の運動① 第15週目 手洗い、手指消毒、手指の運動①	第16週目 施術野の消毒、刺鍼抜鍼時の清潔操作 第17週目 鍼や器具の洗浄、滅菌と保管 第18週目 鍼灸医療事故、有害事象対策 第19週目 セルフ鍼灸 第20週目 セルフ鍼灸 第21週目 対人への施術 第22週目 対人への施術 第23週目 対人への施術 第24週目 対人への施術 第25週目 重要臓器の傷害事故の防止 第26週目 対人への施術 第27週目 対人への施術 第28週目 対人への施術 第29週目 後期期末試験 第30週目 円皮鍼と皮内鍼											
教科書・参考書等	医道の日本社『はりきゅう実技<基礎編>』を使用する。											
成績評価の方法	1) 期末試験の得点。 2) 出席状況。 上記項目から総合的評価して通年評価が120点以上を合格とする。											
実践的教育に関する経歴等	①鍼師・灸師・あん摩マッサージ指圧師 ②鍼灸マッサージ教員免許 ③鍼灸マッサージ院勤務											

授業科目名	ストレンクス&コンディショニング			授業形態	講義	教員	早坂 ひとみ		No.	15
科目区分	選択必修科目	単位	2	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	1年生	
授業概要	科学的根拠に基づいてトレーニングプログラムの作成法、指導法を知識を理解し実践できる。トレーニング指導者に必要な基本的な知識を理解する。									
授業の到達目標	科学的根拠に基づき、スポーツ種目や選手の特性に応じたトレーニング計画をたてるために必要な理論と実践力を養う。									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 トレーニング計画の立案</p> <p>第2週目 運動生理(骨格筋系)</p> <p>第3週目 運動生理(エネルギー代謝、呼吸循環系)</p> <p>第4週目 筋力向上トレーニング</p> <p>第5週目 筋力向上トレーニング 実技</p> <p>第6週目 パワー向上トレーニング</p> <p>第7週目 持久力向上トレーニング(有酸素性、無酸素性)</p> <p>第8週目 ウォーミングアップとクーリングダウン</p> <p>第9週目 柔軟性向上トレーニング:理論</p> <p>第10週目 柔軟性向上トレーニング:実技</p> <p>第11週目 運動と栄養</p> <p>第12週目 運動と医学(整形外科的傷害と予防、生活習慣病予防、子供、高齢者)</p> <p>第13週目 運動と心理</p> <p>第14週目 テスト</p> <p>第15週目 解答</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>授業で学習する内容に関して予習をする。 各種トレーニングは、理論をよく理解し、実際にトレーニング実技ができるよう学習する。 ※講義進行中にトレーニング法などの実技を取り入れて実施する場合もあるので、動きやすい服装で参加すること。</p>									
教科書・参考書等	トレーニング指導者テキスト 理論編・改訂版 トレーニング指導者テキスト 実践編・改訂版 トレーニング指導者テキスト 実技編・改訂版 及び、配布資料									
成績評価の方法	期末テストで60点以上を合格とする									
実践的教育に関する経歴等	①柔道整復師、②接骨院開設、③JATI-AATI、④NSCA-CPT、⑤日本赤十字社救急法指導員 ⑥高校レスリング部トレーナー、⑦高校男子バスケットボール部トレーナー、⑧山形県国体チームトレーナー									

授業科目名	トレーニング科学			授業形態	講義	教員	大津正久		No.	16																														
科目区分	選択必修	単位	4	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	1年生																															
授業概要	機能解剖学や運動生理学、身体運動学などの基礎的知識を学習する。 各種トレーニングを実技によって学習する。																																							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的分野を統合し、身体活動による変化を学習し、現場に活かす。 ・各種トレーニング法を学びストレングストレーナーとしての知識を深める。 																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 トレーニング科学とは</td> <td>第16週目 運動生理学(内分泌系)</td> </tr> <tr> <td>第2週目 体力学とは</td> <td>第17週目 運動生理学(神経系)</td> </tr> <tr> <td>第3週目 機能解剖学(骨、関節、筋)</td> <td>第18週目 運動生理学(神経系)</td> </tr> <tr> <td>第4週目 機能解剖学(骨、関節、筋)</td> <td>第19週目 運動生理学(骨格筋系)</td> </tr> <tr> <td>第5週目 機能解剖学(骨、関節、筋)</td> <td>第20週目 運動生理学(骨格筋系)</td> </tr> <tr> <td>第6週目 機能解剖学(骨、関節、筋)</td> <td>第21週目 運動生理学(骨格筋系)</td> </tr> <tr> <td>第7週目 機能解剖学(骨、関節、筋)</td> <td>第22週目 バイオニクス(てこの作用含む)</td> </tr> <tr> <td>第8週目 機能解剖学(骨、関節、筋)</td> <td>第23週目 バイオニクス(てこの作用含む)</td> </tr> <tr> <td>第9週目 運動生理学(循環器系)</td> <td>第24週目 パワー向上トレーニング</td> </tr> <tr> <td>第10週目 運動生理学(循環器系)</td> <td>第25週目 スピード向上トレーニング</td> </tr> <tr> <td>第11週目 運動生理学(呼吸器系)</td> <td>第26週目 有酸素性持久カトレーニング、無酸素性持久カトレーニング</td> </tr> <tr> <td>第12週目 運動生理学(呼吸器系)</td> <td>第27週目 ウォームアップとクールダウン、柔軟性向上トレーニング(ストレッチ)</td> </tr> <tr> <td>第13週目 運動生理学(エネルギー代謝)</td> <td>第28週目 柔軟性向上トレーニング(ストレッチ)</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期期末試験解説</td> <td>第30週目 後期期末試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について) 黒板の板書を中心に進行する。</p>										第1週目 トレーニング科学とは	第16週目 運動生理学(内分泌系)	第2週目 体力学とは	第17週目 運動生理学(神経系)	第3週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第18週目 運動生理学(神経系)	第4週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第19週目 運動生理学(骨格筋系)	第5週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第20週目 運動生理学(骨格筋系)	第6週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第21週目 運動生理学(骨格筋系)	第7週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第22週目 バイオニクス(てこの作用含む)	第8週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第23週目 バイオニクス(てこの作用含む)	第9週目 運動生理学(循環器系)	第24週目 パワー向上トレーニング	第10週目 運動生理学(循環器系)	第25週目 スピード向上トレーニング	第11週目 運動生理学(呼吸器系)	第26週目 有酸素性持久カトレーニング、無酸素性持久カトレーニング	第12週目 運動生理学(呼吸器系)	第27週目 ウォームアップとクールダウン、柔軟性向上トレーニング(ストレッチ)	第13週目 運動生理学(エネルギー代謝)	第28週目 柔軟性向上トレーニング(ストレッチ)	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 前期期末試験解説	第30週目 後期期末試験解説
第1週目 トレーニング科学とは	第16週目 運動生理学(内分泌系)																																							
第2週目 体力学とは	第17週目 運動生理学(神経系)																																							
第3週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第18週目 運動生理学(神経系)																																							
第4週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第19週目 運動生理学(骨格筋系)																																							
第5週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第20週目 運動生理学(骨格筋系)																																							
第6週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第21週目 運動生理学(骨格筋系)																																							
第7週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第22週目 バイオニクス(てこの作用含む)																																							
第8週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第23週目 バイオニクス(てこの作用含む)																																							
第9週目 運動生理学(循環器系)	第24週目 パワー向上トレーニング																																							
第10週目 運動生理学(循環器系)	第25週目 スピード向上トレーニング																																							
第11週目 運動生理学(呼吸器系)	第26週目 有酸素性持久カトレーニング、無酸素性持久カトレーニング																																							
第12週目 運動生理学(呼吸器系)	第27週目 ウォームアップとクールダウン、柔軟性向上トレーニング(ストレッチ)																																							
第13週目 運動生理学(エネルギー代謝)	第28週目 柔軟性向上トレーニング(ストレッチ)																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 前期期末試験解説	第30週目 後期期末試験解説																																							
教科書・参考書等																																								
成績評価の方法	期末試験(年2回)、出席状態、授業状態により総合的に判定する。																																							
実践的教育に関する経歴等	①スポーツ系専門学校勤務 ②整形外科(運動療法)勤務 ③近畿大学講師 ④東北大学アメフト部 トレーニングコーチ																																							